

【2024 年度 社会貢献基金事業 活動報告⑥】

ラオス人民民主共和国との親善交流（日ラオス友好促進活動）

担当教員：経済学部 准教授 内山 怜和

実施期間：2025 年 2 月 15 日～2025 年 2 月 24 日

<概要および成果>

本学経済学部の内山ゼミ（第 7 期）が、2 月 15 日～24 日にかけて、ラオス人民民主共和国で研修を実施しました。当ゼミでは例年、桃山祭において東南アジア諸国の魅力を伝える展示会・模擬店「東南アジアのすゝめ」（今年度は第 6 回）を開催しており、この取組は社会貢献を目的としています。これまでは、現地の小・中学校や高校、日本語学校に対して桃山祭で集めた募金と模擬店収益の半額を活用し、教育関連物資を贈呈するなど、ラオスやミャンマー等の後発開発途上国（LDC）での教育支援活動を展開してきました。今回の研修では、昨年度に続き、本学卒業生のパチャンペン・ティッパポーンさん（2018 年度経営学部卒業／内山ゼミ・第 2 期）が副校長として勤務するセンビライ小・中学校に学習教材や学用品、スポーツ用品等の教育関連物資（8 万 4370 円分）を贈呈し、親善交流を行いました。

成果として、以下の点があげられます。まず、教育関連物資の贈呈により、センビライ小・中学校の生徒たちの学習が捗ることが期待されます。次に、中学校の 3 クラスで日本語の授業を実施したことは生徒の日本語学習に対する意欲の向上に寄与しました（同校では、昨年度の内山ゼミ・第 6 期の訪問をきっかけに、昨年 9 月より、日本語の授業が中学校全クラスで開講されています）。また、中学校全生徒を対象に、日ラオス両国の経済関係についてプレゼン発表したことで、日本のラオスに対する開発協力や日系企業についての理解を促進しました。その他、野球教室やフットサル親善試合などを通して、生徒たちの日本に対する興味・関心を高めたと考えられます。

加えて、参加学生はラオス国立大学文学部日本語学科との学術交流を行った他、JETRO ビエンチャン事務所や JICA ラオス事務所、ラオス国立大学・ラオス日本センターを訪問し、ヒアリング学習することで、ラオスについての知見を深めました。

<参加学生のコメント（抜粋）>

「センビライ小・中学校での日本語の授業、日本の開発協力についてのプレゼン発表、日本の伝統的な遊び紹介等において、生徒から向けられた真剣な眼差しが目に焼き付いています。」（経済学部 3 年生）

「センビライ小・中学校に贈呈する教育関連物資の現地調達などを担い、どれを選んだら生徒たちに喜んでもらえるか検討することにやりがいを感じました。」（経済学部 3 年生）

<活動の様子> センビライ小・中学校でのプレゼン発表（左・中央）、ラオス国立大学との学術交流（右）

